



鳴土第285号の1
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

鳴門市長 吉田 忠志



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回 答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号により依頼のありました標記の件について、
別紙のとおり回答します。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

① 災害時の危機管理体制の確立・緊急輸送路の重点的整備

地震などの大災害時の道路利用者への情報提供をはじめ、危機管理体制の確立

老朽化した橋などの耐震補強

災害時に役立つ緊急輸送路の重点的整備

② 効率化を徹底的に進める

事業のスピードアップを図り、事業毎の評価の徹底(事務事業評価等)

道路建設や管理に係るコスト削減と品質確保の工夫(総合評価方式等)

高速道路の整備効果を最大限発揮できるよう道路特定財源を活用し、高速道路の通行料金の引き下げ

③ 景観・文化的価値の創造

沿道、地域、道路が一体となり沿道の住民やNPOなどが道路の管理に参画できる取り組み(日本風景街道や道の駅の整備)

まちづくりや観光のために、歴史ある橋や街道などの価値を見直し、文化資産としての街並み整備(新たな公による取り組み等)

④ 広域的なネットワークの整備(四国8の字ネットワークの形成)

少子高齢化が進む経済社会、環境の急激な変化に対応して社会資本整備への要請は、自然災害へも強い道路整備を進めることがより一層重要となってまいります。鳴門市においては、平成10年4月明石海峡大橋が開通し近畿圏と陸路で結ばれ、さらに平成14年7月には香川県と高速道路で結ばれ鳴門市では、地理的優位性において産業経済、物流をはじめ四国と本州の交流拠点都市としての整備を進めてまいりました。

しかしながら、自治体としての取り組みには限界があり、高速道路の整備「四国8の字ルート」の早期完成は必要不可欠であり、ネットワーク化され初めて、地域の活性化と地域住民の安定化を図る効果が生まれるものであります。一家で数台の車を保有し、住民生活や社会経済の大部分を道路に依存しているにもかかわらず、渋滞対策、幹線道路と生活道路の確保、沿道環境の改善などあらゆる面で十分とはいえず住民にとって道路整備は重要となっております。

また、今後、東南海・南海地震への備えなど、県民の命と生活を守るためにも緊急輸送路の整備を強力に推進することが求められております。

⑤ 近年の公共投資全体の要請を背景として、道路予算歳出が抑制され、道路特定財源が平成21年度から一般財源化されるとのことでありますが、道路整備の遅れている四国の道路整備に配分投入すべきであります。

国におかれましては、本市の道路に依存している実情を十分に把握され、道路整備の重要性、緊急性、走行時間の短縮、安全性の向上など地域住民の暮らしと生命をつなぐ道路の重要性を十分認識され、なかでも「四国8の字ルート」の早期完成に特段の配慮がなされるよう要望致します。

② 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

⑥ 高速道路利用料金の引き下げ

現在、国の総合経済対策により、地方の観光振興を目的として、土・日・祝日の昼間、本州四国連絡道路を含めた高速道路の利用料金を半額とする割引措置が実施されている。

今回の割引措置によって、自動車を利用する観光客の増加が見込まれているが、約1年間の実施期間では十分な効果を上げることは出来ず、実施期間の延長が必要である。

また、今回実施されている昼間の割引措置は、普通自動車以下の車両が対象であり、多くの観光客が利用する観光バスなどは対象となっていない。四国の観光振興・経済発展を図るため、利用料金の高さが道路の利用促進の障害となっている本州四国連絡道路の通常利用料金の引き下げについても、ご検討いただきたい。

○現状

① 鳴門市の市道は、現在、2473路線、約600km改良率60%舗装率88.9%となっており、比較的良好な水準にあります。しかし、既成市街地や既存集落などには、緊急車両の進入が困難な狭隘な道路も多く残っており、歩行者道路・道路緑地・道路のバリアフリー化なども十分に整備されていません。

② 市道に架かる橋梁数は、713橋あり、これらの橋は老朽化も多いことから、近い将来発生が予測されている東南海・南海地震などに備え、落橋防止対策や橋脚補強などの必要な措置をしていく必要があります。

③ 鳴門市においては、平成10年4月に明石海峡大橋が開通したことにより、本市と近畿圏が陸路で結ばれ、四国と本州のハブ都市(交流拠点都市)としての整備を進めてまいりました。しかしながら、本州四国連絡道路の割高な通行料金が障壁となり、人、物、情報の交流活性化が阻害されており、通行料金の引き下げ等利用しやすい料金とする必要が求められています。

④ 高速交通網の整備は、観光客の移動範囲を広げ、地方の観光振興に大きな効果をもたらしている。

鳴門市においても、その効果を最大限に活かすべく、広域交通網で結ばれた神戸市、倉敷市、琴平町とともに「瀬戸内四都市広域観光推進協議会」を構成し、各都市が持っている個性的な観光資源を有機的に結びつけた広域循環型観光ルートの開発に取り組んでいる。

○課題

① これまでに整備された道路ストックの高齢化(機能の低下)が進んでおり、その機能を適切に維持し、将来世代に引き継ぐこと。

② 既存ストックを適正に管理しつつ、真に必要な道路整備を推進するためには、その実現に必要な事業費に見合う財源を安定的に確保すること。

③ 高速道路の整備効果を最大限発揮できるよう道路特定財源を活用し、本四道路の通行料金を引き下げすること。

④ 広域循環型観光ルートの開発に取り組んでいる四都市のうち、徳島・香川両県を走る東四国横断自動車道の鳴門IC・高松IC間は、暫定2車線での供用区間のままであり、都市間の移動の妨げとなっている。

高速交通網の効果を活かし、広域的な観光交流を推進するためにはこの区間の早期4車線化が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

徳島県鳴門市

○現状

- ⑤高速道路の整備「四国8の字ルート」の早期完成
鳴門JCT(仮称)から徳島IC間の10.9kmを平成26年度までに供用予定である。
- ⑥四車線化については、高松自動車道は高松東ICから鳴門IC間、また、徳島縦貫自動車道については、2車線である。
- ⑦徳島JCT(仮称)から徳島東ICまで4.3Kmは、平成31年度までに完成させる方針であり、現在工事中である。
なお、徳島東ICから阿南IC間の17.5Kmについては、国と地方の負担により整備する新直轄方式となっており、設計協議及び設計協議の準備中である。
- ⑧東南海・南海地震への県民の命と生活を守る緊急輸送路の整備
阿南から高知へのルートについて、一部着工し完成している。
- ⑨鳴門西PAにおけるスマートICの設置について地元からの要望。

○課題

- ⑤鳴門JCT(仮称)から徳島IC間、及び徳島JCT(仮称)から徳島東ICまでの間の高速道路が計画的に供用できるのか。
- ⑥4車線化でない高速道路は、まれにしか無く、非常に危険である。
早期に4車線化に改良の必要性がある。
- ⑦平成31年度供用開始し、四国横断自動車道の早期供用。

併せて徳島東ICから阿南IC間の17.5Kmについて早期供用。
阿南から高知ルートへ連結。
- ⑧今後の供用計画についての計画はどうか。
- ⑨鳴門西PAから県道への連絡道であるが、住宅地または公園区域を通過するルートがあるが、計画することは可能だが、実施に向けて協議中。

○現状

⑩平成13年3月に閣議決定された「第八期住宅五カ年計画」において、住宅市街地の基盤的な安全性を確保するための指針として「緊急に改善すべき密集住宅市街地」の基準が決定されるとともに、平成15年7月、国において「重点密集市街地」の公表がされております。

鳴門市では、瀬戸町堂浦地区(2.0ha)と鳴門町土佐泊地区(1.4ha)が該当いたしております。

市内には、両地区に類似した集落が数カ所見受けられることから全市的な基礎調査をするとともに、堂浦・土佐泊地区においては住環境整備事業の導入可能性検討及び住環境の改善に向けた今後の課題整理の現況調査を計画しておりますが、現在のところ着手に至っておりません。

平成19年度においては、両地区の住民に危険性を認識していただくために戸別訪問し、耐震診断や耐震改修をされるよう啓発等を行ったところでございます。

また、平成20年度において堂浦地区で、一部地区内道路が区域内を通る幹線道路より低いため、道路地盤の嵩上げ工事を予定しております。

とりわけ、国においては平成20年度中に、全国の重点密集市街地400地区を一斉に調査した上で、課題に応じたアクションプログラムを策定するとのことであります。

○課題

⑩大火の可能性の高い危険な重点密集市街地を対象に整備し、最低限の安全性を確保することが国の重点課題となっている中で、鳴門市においては、東南海・南海地震が発生した場合に甚大な被害が予想され、特に住宅数密度が高く、木造老朽化住宅が密集した地域においては、大規模な火災に繋がる可能性が高くなっております。

火災から市民の生命、財産を守るためには火災を未然に防止するとともに、安全な避難経路が確保され、早急な消火活動により延焼・類焼を防止することが求められています。

重点密集市街地として公表された堂浦・土佐泊地区には、市街地が形成されてきた歴史や地域コミュニティなど地域ごとの特性があるため、整備・改善にあたっては、まちづくり協定や地区計画などのソフト面からの誘導手法及び避難路や避難場所の整備などのハード面からの整備手法の両面から、それぞれの地域の特性に応じた事業により整備・改善を進めていく必要があります。

これらのことから、事業の実施にあたっては、多額の事業費が見込まれますので、補助制度の充実を要望いたします。

②-2 地域の目指すべき将来像

- ① 道路は、市民の暮らしを支える重要な都市施設であり、利便で安全な地域の人々の豊かな暮らしと沿道空間の再生による、活力ある地域社会の実現に貢献するという使命に基づき、新たな道路行政を展開する。
- ② 地域の景観の多くは、道路と沿道の景観要素が一体となって形成されていることから、道路と沿道を一体的にとらえ道路利用者のみならず、沿道地域と道路が一体となった新たな価値を創造する。
このことから、現在、国土交通省が進められております「日本風景街道・新たな公」事業を通じて、より美しい鳴門の再発見を行う。
- ③ 四国横断自動車道は、阿南市を起点として徳島市、高松市、を経て川之江 JCT において、四国縦貫自動車道と交差・接続し、高知市を経て大洲市に至る441kmの道路であります。このうち徳島・香川両県を走る四国横断自動車道は、鳴門市から阿南市までの未整備区間が残されております。なお供用区間であっても高松東 IC から鳴門 IC 間は、暫定2車線での供用であり早期の4車線化が必要であります。
- ④ 高速道路は、ネットワーク化が進むことにより、経済発展や観光振興など地域社会の活性化に大きな効果をもたらします。徳島 JCT(仮称)における両自動車道の日も早い連結が待たれております。
一方、徳島南部においては、四国横断自動車道の起点である阿南市から更に南に向かっては、地域高規格道路の阿南・安芸自動車道が計画されており、整備が進んでおります。この阿南に向かい伸びていく横断道とそれに続く阿南・安芸自動車道とは、四国の大きな8の字ルートを形成する上で非常に重要な道路であります。
このルートの完成は経済、文化、観光など四国全体のあらゆる発展にとり絶大な威力を発揮するものであります。
- ⑤ 住環境整備事業には、小規模住宅地区改良事業や住宅市街地総合整備事業等があり、いずれの事業も面整備を行うこととなりますが、多額の事業費が必要なことや、地元関係権利者等の合意形成といった面からも即時の事業化は困難な状況にありますので、機会あるごとに住環境改善の機運が高まるよう努力してまいりたいと考えております。
- ⑥ 災害時に最低限人命を守る避難路や避難地の確保をするとともに、住宅の整備・改善にあたっては修復型の事業手法(耐震診断から建替えや耐震改修等)を中心に進めていくとともに、地元住民の建築活動を適切に誘導することにより整備・改善を進め火災や災害に強いまちづくりを推進していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

徳島県鳴門市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
①地域活力の向上 ②総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	①新たな公によるコミュニティ創生支援事業 (四国霊場第一番札所門前まち板東商店街の再生) ②木津野松村線改良工事 (安全で快適な生活道路の整備) 道路橋梁耐震化事業 (災害に強いまちづくり・防災施設の整備)	①四国八十八か所・霊山寺と大麻比古神社の門前町として栄えた板東商店街の活性化 ドイツ捕虜収容所のほか各種農産物の地元資源も豊富な地域であり、新しい商品開発も期待できる。 ②安全性・経済効果が図られる。 地域の安全・安心を確保する「命の道」としての評価・経済効果としての評価など(新たな便益)評価を行い、効果の高いところに対して優先的に対策を実施する。 落橋の甚大な被害の防止を図り、被災時の円滑な救急、救援、輸送及び復旧活動などに対応し、市民の生命、財産を保護する。	②農業生産額効果 取引先への波及効果 観光消費額効果 橋梁の落橋時には、対象地域が孤立する落橋防止対策をすることにより、対象地域約 10,918 人の人命に直結する救急車両の搬送時間の短縮に伴う救命率の上昇効果が期待できる。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

徳島県鳴門市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
③四国横断自動車道四車線化	③四車線化と比較して事故率は1.7倍、いつも工事している、待たされる感じがする。予定どおりに着かない。	③予定どおり目的地に到着できる。対向車線を気にしないで安全に走行できる。高松東ICから鳴門IC間 51.8 kmにおいて 100 km/h で走行すれば、13 分の短縮となる。	③高速対向につき事故の危険性をいつも配慮し走行。高速車と低速車が交雑し走行、危険な精神状態。
④8の字ルートの早期完成	④鳴門JCT(仮称)から、徳島IC間の高速道路の早期完成	④ネットワーク化され初めて地域の活性化と地域住民の安定化を図る効果が生まれる。7分以上短縮できる。	④高速道路が整備されている地域との物流の時間差が地域を過疎化に追い込む。
⑤四国横断自動車道とそれに続く阿南・安芸自動車道の早期完成	⑤徳島JCT(仮称)から、南進する高速道路の早期完成	⑤8の字ネットワークを形成する上で非常に重要な道路となり、経済・文化・観光など四国の活性化・発展に重要なものとなると予想される。徳島JCTから阿南ICまで 22.3 kmにおいて 30 分の短縮が期待される。	⑤8の字につながる高速道路がなければ四国の過疎化は免れない。
⑥本州四国連絡道路、徳島道の通行料金の値下げの拡充	⑥高速道路、本州四国連絡道路の料金引き下げ及び割引導入。時間帯を設定せずに料金引き下げ、割引導入	⑥四国の産業・農産物の輸送に本州との価格差が縮まり他地域との製品と競争ができる。	⑥価格差の縮小。
⑦スマートICの追加	⑦鳴門西スマートIC(仮称)	⑦鳴門西PAから県道に接続できれば、鳴門市総合計画「活力とにぎわいあふれる鳴門づくり」が期待できる。鳴門ICから 8 km地点、鳴門西PAに予定しており、鳴門ICでは 3,502 台/日、板野ICでは、8,112 台/日の出入りがあり、交通量は、10,613 台/日であり、吉野川ハイウェイアシスICの利用台数から換算すると 600 台/日、費用対便益 B/C の確保も将来可能と予想される。接続道路は、主要地方道、県道鳴門池田線 14,246 台/日・県道徳島北灘線 1,773 台/日である。	⑦周囲には、ドイツ村公園・観光客 11 万人/年、板東俘虜収容所跡もある。また「第九道の駅」もある。四国八十八カ所霊場はこの地から始まる。巡拝のお遍路は 15 万人/年。また、阿波一宮大麻比古神社があり歴史文化が体験できる貴重な地域である。